

2022年4月1日

## 2021年度 作業所の“モノづくり”を通じて障害者と社会をつなぐ事業 事業報告書

(オンラインを用いた作業所スタディーツアー／作業所向け商品力向上ワークショップ)

一般社団法人マジエルカ  
代表理事 藤本光浩

助成をいただいた事業につき、以下の通り報告致します。

### 事業1. 福祉作業所スタディーツアーと紹介動画製作

#### 1. スタディーツアー概要：

2021年4月より事業を開始し、計6か所の全国でモノづくりを行う障がい者福祉事業所のスタディーツアーを実施した。実際にはマジエルカのスタッフが現地を訪問し、各事業所にて約90分のツアーを実施し、多数の参加者がZOOMを通じてリアルタイムで参加した。

ツアーでは、事業所のスタッフから事業所の概要を説明していただき、「活動の中で大切にしていること」などについても話を伺った。また、時には利用者にガイドをしていただきながら、取り組む作業の様子を伝え、参加者と事業所スタッフ・利用者が交流する時間も設け、双方が「学びや気づき」を得られる機会をつくった。

#### 2. ツアー詳細と参加者満足度：

実施の詳細と参加者の満足度は以下の通り。

日時	地域	訪問先事業所	ツアー参加者数	満足度	訪問先団体参加者数	満足度
4月23日	神奈川	スタジオクーカ	46	88%	25	100%
5月27日	埼玉	すいーつばたけ	18	72%	80	60%
7月14日	京都	なづな学園	14	76%	45	100%
8月5日	福岡	工房まる	30	89%	30	80%
11月2日	東京	八王子生活館	17	87%	35	80%
11月13日	鳥取	アートスペースからふる	19	85%	43	80%

#### 3. アーカイブ動画公開：

上記のスタディーツアーで訪問した障がい者福祉事業所の様子をより多くの方に知ってもらうために、ツアーのダイジェストを約15分動画にし、YoutubeとfacebookとHPの特設ページで公開。積極的に告知を行い、視聴を働きかけた。

HP の特設ページでは、参加者のアンケート結果の一部も紹介。訪問先事業所の自主製品購入を促すために、動画のリンクに加えてオンラインショップのリンクも貼った。

### マジエルカの HP 上の日本財団事業に関する特設ページ

<https://www.majerca.com/nippon-foundation/>

【福祉作業所のモノづくりを通じて障がい者と社会をつなぐ事業】



一般社団法人マジエルカは、日本財団様からの助成を受けて「福祉作業所の“モノづくり”を通じて障がい者と社会をつなぐ事業」を実施します

《内容》

① オンライン・スタディーツアー

ふだん障がい者や作業所と関わる機会の少ない一般の方々が、作業所での“ものづくり”を通じ、障がい者のことや作業所という場所をより身近な存在として感じ、関心を高めてもらうことを目的に全国の作業所を訪問するオンラインスタディーツアーを実施。  
マジエルカスタッフがレポーター&カメラマンとしてリアルタイムで作業所の様子や作業風景をオンライン(zoom)で中継します。  
作業所のスタッフや利用者が参加者の疑問に答えたり、逆に参加者に意見を求めたりといった双方向のコミュニケーションが取れる機会にもします。

なお、現時点での動画視聴回数は以下の通りである。

事業所名	スタジオクーカ	すいーつばたけ	なづな学園
累計視聴回数	716回	697回	856回
動画			
事業所名	工房まる	八王子生活館	アートスペースからふる
累計視聴回数	579回	866回	21回
動画			

※マジエルカの Youtube チャンネルでも継続的に動画を公開している  
<https://www.youtube.com/channel/UCRR-QuSGQVtGQI8ygzlvGfg>

## 参加者の声（アンケートより一部抜粋）

### 〈気づきや学び〉

- オンラインであっても、みなさんが私たちの訪問を歓迎してくださっていたことが印象的でした。やはり人と人との出会い、交流が人を元気にするんだなと感じました。
- このような活動があることを知って、私も勝手ながら SNS などで発信するお手伝いをしたいなと思いました。
- 作品を「人とのコミュニケーションツール」としてとらえる視点、非常に納得しました。
- 障がいがあってもなくても、その人には個性があるし、みんなでいるときは楽しそうにしている姿を見て、私たちと変わらないなと思った。
- 私自身は障がいを持っている人と直接かかわったことがなく、実際に会うと変に気を使ってしまうこともあるかもしれませんが、職員の方の接し方を見て、今後は障害の有無関係なく、友人と接するような対等な関係で接することができたらいいなと気づきました。
- 賃金の金額を聞き、改めて就労支援の大変さを感じた。

### 〈感想〉

- とても楽しかったです！一緒に現場に行ってみ学んでいるようで、もっとあっちもこっちも見たいくなりました！マジェルカさんのメンバーさんの作品愛も感じて嬉しくなりました。
- 作品が生まれる過程や思いなどを知ると、ショップで商品を見るのが楽しくなるし、特別な思い入れを感じ、欲しくなる。自分も自分なりにできることでサポートしていけたらと思う。
- 楽しそうな作品は、楽しそうな人たちから生まれているんだなあ！と改めて思いました。
- 中1の長男が最初から最後までじっと見ていた。
- 利用者さんが今はできなくても教わることで様々なことができるようになる。まさに「卒業しない学校」だなと思いました。

## 受入先の担当者の声（アンケートより一部抜粋）

- 改めて自分の施設のことや伝えたいことを考えることができた。
- スタッフ一人ひとりが日々の仕事について見直す機会が持てた。
- 製品の評価を直接聞くことが出来、改善点や今後の新製品開発のヒントになりました。
- 緊張したといっておられましたが、みなさんとても楽しんでおられました。
- ものづくりについて、改めて自信を振り返るきっかけになった。
- メンバーさんは緊張されていましたが、自分の作品をぜひみてほしいと準備しておられる等、自分たちの仕事や活動を知っていただけることをうれしく思われているようでした。
- 緊張しているメンバーもいたが、いつも通りお仕事したり、いつも以上に力を発揮できたメンバーもいてみんないい表情をしていた。

## 事業2：ウェルフェアトレード ワークショップ 開催

### 1. ワークショップ概要：

スタディーツアー訪問先地域の福祉事業所を対象に、ウェルフェアトレードについて説明し、個々の事業所が抱える商品作りの課題解決について議論する2時間のワークショップを6地域で開催。（埼玉、京都、福岡、鳥取は対面での開催。東京、神奈川はコロナの感染状況が深刻化していたため、オンラインでの開催とした。）

当ワークショップの参加団体の募集に当たっては、地方の行政担当やセルフや振興センターや、福祉業界に詳しい専門家にもネットワークを紹介いただき、新たなネットワーク構築にもつながった。実際に、地方で開催したワークショップには行政担当者や中間支援組織の方も多数参加してくださり、その後の「委託事業化」も検討していただいている。

### 2. ワークショップ詳細と参加者満足度：

実施内容と参加者の満足度は以下の通り。

日時	地域	会場	参加者数	満足度	ゲスト（行政・中間支援組織）
5月27日	埼玉	川口会議室	13	82%	
7月14日	京都	長谷ビル会議室	15	89%	京都市障害者福祉担当者2名
8月5日	福岡	モモチパレス	5	90%	福岡県障がい者文化福祉支援活動センター長
11月12日	鳥取	県民ふれあい会館	4	100%	鳥取県振興センター担当者2名
1月25日	東京	マジェルカギャラリー	10	80%	
1月27日	神奈川	マジェルカギャラリー	12	92%	相模原市障害者作業等連絡協議会

### 参加者の声（アンケートより一部抜粋）

〈気づきや学び〉

- 製作販売についての意識が変わった。
- 作っている商品がターゲットに会っていないことに気づいたので方向転換を決断できた。
- 商品を作ったり値段をつけるときにお客様視点で考えるということを学んだ。
- 自分の所だけでなく、周りの人も幸せにすることのできる仕事づくりの大切さに気付きました。
- やはり工賃アップの取組みは、メンバーの社会参加へのきっかけやモチベーション向上につながるのだと感じた。
- 作業所で作成したものにプライドを持って価格設定し、販売したいと思った。

## 2. ワークショップ写真：



### 事業の成果：

#### 〈事業1：スタディーツアーと動画配信〉

- 障害者福祉と関わりの少ない144人の一般の方が、作業所やそこで働く利用者・支援者のことを知り、交流する機会を提供できた。
- また、ツアーの告知や動画の配信を通じて、ツアーに参加しなかった多くの人にも、作業所でのモノづくりに関心をもつきっかけを提供できた。（実際の動画視聴数は約3800回にのぼる）
- これらは障がい者理解を深め、その後の障がい者に対する行動の変容につながることを期待できる。
- 一方で作業所の支援者や利用者（計248名）も、普段なかなか交流する機会のない「施設外の人」と交わり、自主製品作りの意義を理解し、モチベーションを向上させることができた。
- マジェルカが販売する訪問先6事業所の半年間の自主製品売上は、前年度比35%増となった。

#### 〈事業2：商品力向上ワークショップ〉

- 59名の作業所の支援者が、ウェルフェアトレード（福祉のフェアトレード）という概念を十分に理解し、自主製品のもつ可能性を理解できた。また、今後の工賃向上にもつながる自主製品の商品力・販売力向上のヒントを得ることができた。

以上